



高山市【岐阜県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成22年3月 ■ 人口：88,566人 ■ 面積：2,178km²
■ 担当課：高山市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



まちづくりの核の一つとして「歴史」を捉え、文化財を地域資源として活用する考え方が市政全体に波及する中で、文化財の持つ歴史的な価値を損なうことなく、「何を守り、何を活かすか」を市民全体が認識し、今後50年、100年先にも継承される文化財の保存活用のあり方を検証するとともに、各分野で展開される文化財を活用した施策に対する基本的な方針を定めるための計画。

5 歴史文化を表す つのキーワード

城下町高山の町人生活と祭礼、歴史街道
農山村集落、中世城館、飛騨の匠

課題

- ・文化財の継承の課題
- ・文化財の活用への課題

保存活用方針

- ・文化財の調査
- ・文化財の適切な保管・管理
- ・文化財の周辺環境の保全
- ・文化財の普及啓発 等

保存活用のための取り組み

文化財の調査

市街地—歴史街道—農山村・山林の枠組みで文化財を把握し、有形無形の文化財が一体となった空間ごとの調査を推進するとともに、市全体の中の各文化財の再評価を検討する。



文化財の適切な保管管理

地縁団体と連携して活動する市民活動団体や製作技術等を継承する人材の養成を図る。



文化財の周辺環境の保全

文化財を取り巻く山林や自然環境、新しい建造物などを含めた周辺環境を一体として保全を図る。



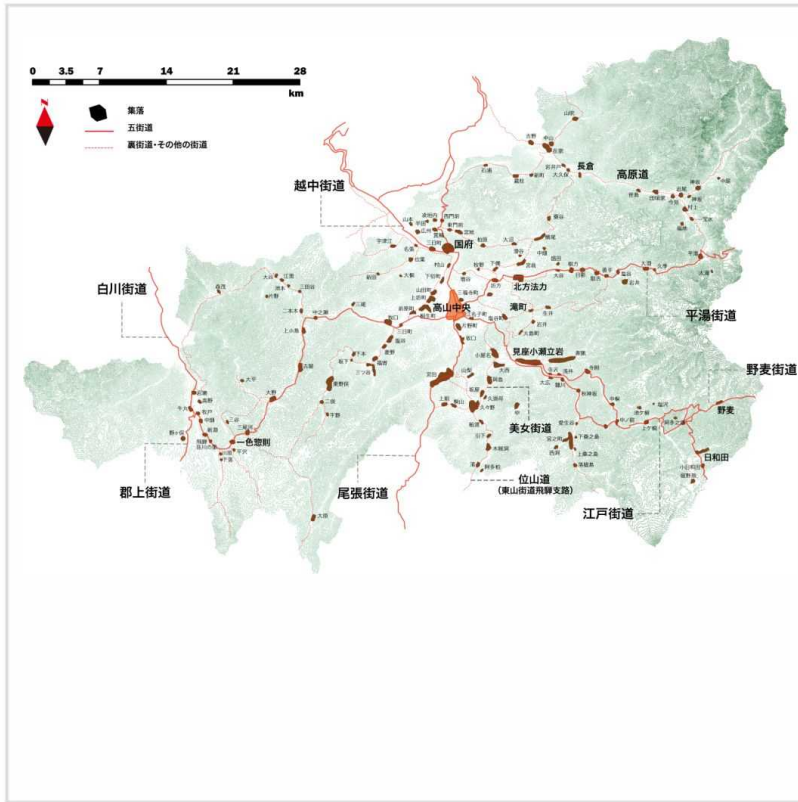
文化財の普及啓発

地域に愛着を持ち、住み続け、伝統文化を将来にわたり継承していく人材を育成するため、学校等の教育機関と連携して、市民への普及啓発に努める。





関連文化財群



地域の範囲や歴史的連続性など共通の事項（キーワード）で文化財及びその周辺環境を含めて評価し、一体となって歴史・文化を価値付けることのできる範囲（地理的範囲・ネットワークの両方を指す）を関連文化財群としている。市域全体を「市街地」「農山村」の枠組みで網羅し、「街道」でつなぎ、その状況が現代まで継承されていることを基本に設定した。

ストーリー

- ① 城下町高山の町人生活と祭礼
- ② 歴史街道
- ③ 農山村集落
- ④ 飛騨国の形成
- ⑤ 中世城館
- ⑥ 山岳信仰
- ⑦ 飛騨の匠
- ⑧ 城下町高山の近代化



策定後の成果（見込まれる効果）

① 未指定文化財の保護

歴史文化基本構想の策定に引き続き、集落毎のテーマに基づいて住民が文化遺産を保護していくためのプラン作りを数箇所で行っている。今後はこのプランを市が認定、プランに位置づけられた具体的な事業を市が採択して支援していく仕組みづくりを考えていく。



② 市民の歴史文化への関心の高まり

歴史的風致維持向上計画の策定を平行して実施しており、歴史文化基本構想策定の効果とあいまって歴史的建造物の保存や伝統文化継承の意識の向上など市民の歴史文化に対する関心がより高まったといえる。



③ 日本遺産認定を機に地域活性化

関連文化財群のひとつである「飛騨の匠」が、平成28年4月に「飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ1300年」として「日本遺産」に認定され、これを機に郷土の文化財再評価の機運が高まってきており、日本遺産を活用した地域活性化の取り組みを行っている。

